

資料2 食育推進実施プランの進捗状況について

									実施内容	現状値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	目標達成度
番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	現状	事業目的	対象者	指標式名	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H24年度
(1) 健康増進と健康管理に関する取組																
1. ライフステージにおける取組《乳児期・幼児期・学齢期》																
○料理教室の開催による食育																
1	少子化対応推進事業	離乳食講座と実習	幼児教育センター	月齢や発育・発達状態に合わせた離乳食の段階や調理方法の指導、旬の食材を使った離乳食作りと試食体験	社会情勢の変化に伴い、子育ての環境も食生活も大きく様変わりしてきている。離乳食の作り方・食べさせ方から、食育に対して知りたい・聞きたい・情報を得たい保護者が多くなっている。また、実際に自ら調理する機会を求めている保護者が多くなっている。	月齢や発育・発達状態に合わせた離乳食の確実なステップや調理方法の指導より、食事の基礎を作る。また、情報交換や相談の場の提供により安定した生活を図る。	・妊産婦 ・乳児の保護者	参加者数	●開催回数:8回 5～6か月頃と7～8か月頃、9～11か月頃と12～18か月頃の離乳食の講話と実習(各4回) ●中央保健福祉センター ●対象:妊産婦及び乳児保護者:各20名	146人	135人	152人	160人	160人	160人	95.0%
2	男女共同参画推進啓発事業	親子クッキング	人権男女共同参画課	身近な食材を利用しながら、栄養バランスの取れた料理を作る親子料理体験	「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方に肯定的な回答が40～50%程度(まちづくり市民意識アンケート調査等)となっており、「家事・育児は女性の仕事」といった固定的な社会通念が男女共同参画や食育について、その推進を阻害する要因となっている。	親子での料理体験を通じ、家庭での男女平等教育、男女共同参画の推進、食育の推進を図る。	・子ども ・保護者	参加者数	●開催回:1回(8月25日) ●開催場所:男女共同参画推進センター「スヒカ」調理実習室 ●内容・参加者数: 「エンジョイ・クッキング(料理教室)」22人	48人	10人	22人	48人	48人	48人	45.8%
3	幼児教育センター運営費	親子クッキング	幼児教育センター	幼児向けのおやつを作る親子料理体験	社会情勢の変化に伴い、子育ての環境も食生活も大きく様変わりしてきている。離乳食の作り方・食べさせ方から、食育に対して知りたい・聞きたい・情報を得たい保護者が多くなっている。また、実際に自ら調理する機会を求めている保護者が多くなっている。	親子料理体験をととして親子がふれあい、また、子どものころから「食」への関心を高める。	・児童(就学前) ・保護者	料理体験の満足度	●開催日 ①7月26日 ②7月27日 ●献立:豆腐のアイスクリーム、大根もち ●開催場所:幼児教育センター ●対象:3歳～未就学児とその保護者各10組	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
4	幼児教育センター運営費 (再掲)	幼児食調理講習会	幼児教育センター	調理講習会の開催(子ども向けのメニューや、調理方法などを学ぶ)	社会情勢の変化に伴い、子育ての環境も食生活も大きく様変わりしてきている。離乳食の作り方・食べさせ方から、食育に対して知りたい・聞きたい・情報を得たい保護者が多くなっている。また、実際に自ら調理する機会を求めている保護者が多くなっている。	大人自らが食生活を見直し、食をとおして子育ての楽しさや大切さを感じとる。食を楽しむ機会をととして子どもの「食育」について関心を高める。	・就学前児童の保護者	調理講習会参加者の満足度	●開催日 ①6月19日 ②6月20日 ③12月3日 ④12月4日 ●献立:①②豆腐のミニキッシュ、コロコロスー ③④おからのブラウニー、かぼちゃの甘酒マフィン ●開催場所:幼児教育センター ●対象:未就学児をもつ保護者各12名	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
5	幼児教育センター運営費 (再掲)	魚のさばき方教室	幼児教育センター	魚のさばき方の実習(魚市場協会の協力による)	魚の調理方法を知らない保護者が多くなっている。	魚の調理体験によって、親や子どもたちに対し魚料理への関心を高める。	・市民(主に乳幼児・児童の保護者)	調理講習会参加者の満足度	実施していない	95.7%	100.0%	未実施	100.0%	100.0%	100.0%	#VALUE!
H23新規	少子化対応推進事業	イクメンパパのクッキング教室	セ ン タ ー 幼 児 教 育	父親の調理実習	父親の育児参加への意識は、増してきたが、まだ、育児に関しては、母親の役割が大きい現状である。	父親が作る料理を通して、親子のかかわりを深めるとともに食育への関心を高め、さらに父親の育児参加の意識の向上をはかる。	未就学児を持つ父親とその家族12組		●開催日:12月14日(土) ●開催場所:幼児教育センター ●内容:イクメンパパのケーキづくり		32人	37人		24人	32人	115.6%
6	栽培漁業推進事業	啓発活動・水産教室など	水産課	水産教室、お魚料理教室、漁業体験などの開催	佐世保市と市内漁協で構成する佐世保市栽培漁業推進協議会と佐世保市水産振興協議会と連携し、啓発活動を行っている。	体験などを通じてブルーーツーリズムを推進するとともに、料理教室を通じて水産物の消費拡大、地産地消の推進を図る。	・市 民	水産教室などへの参加者数	水産教室の開催 小中学校で栽培漁業、地元水産振興活動の紹介、種苗放流、さばき方教室の実施	956人	1,011人	1,055人	2,500人	1,500人	1,500人	70.3%

資料2 食育推進実施プランの進捗状況について

									実施内容	現状値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	目標達成度
番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	現状	事業目的	対象者	指標式名	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H24年度
○相談、支援などによる食育																
7	育児等健康支援事業	親子教室	子ども保健課	親子遊びをとおして、子どもの発達を促し、子どもへの関わり方や育児不安の解消などを支援	1歳6カ月時健診のフォロー児及び一般参加希望児がいるが、フォロー児のほうが参加が少ない。食事やおやつ、アレルギーなど食に関する相談が多かったため、平成18年度から栄養士による講話を実施している。	食に関する不安を軽減し、食への興味や関心が持てるように、食べる意欲を大切に、食の体験を広げる。	・1歳6カ月児健診のフォロー児	親子教室参加者数	親子遊びを通して、児の発達を促し子へのかかわり方や育児不安の解消などを支援。幼児の食事に関する相談などを受けている。(子育て支援センター3か所と吉井健康館)	1,952人	1,932人	811人	500人	1,500人	2,000人	40.6%
8	育児等健康支援事業 (再掲)	育児学級	子ども保健課	育児や離乳食の相談、離乳食の試食体験	いろいろな相談があるが、離乳食についての悩みは多い。平成17年度から、栄養士による離乳食についての講話を実施している。	離乳食を試食することで離乳食づくりの関心を高める。子どもが離乳食を食べる経験をとおして、食べることの基礎と自分で進んで食べる力を育む。	・乳児 ・母親 (宇久地区)	育児相談者数・教室参加者数	初めての育児を行う母親に、知識の伝達と母親同士の交流を行うことで、いろいろな不安を軽減・解消につなげる。	471人	446人	531人	60人	500人	500人	106.2%
9	公立保育所拠点機能事業	食に関する育児講座等	子ども育成課	食に関する講話や調理実習、むし歯予防の講話	平成22年度 管理栄養士による講話:1回 食生活改善推進員による実習:1回 調理師による調理実習:1回 保育士による講話:実習19回 歯科医師による講話:1回	在宅親子に対して、食や口腔に関する正しい知識を普及する。	・在宅親子	参加者数	保育士による講話:実習15回 歯科医師による講話:2回 歯科医師による講話:1回 すくすく広場 歯科衛生士講話:14回 0歳児の会 たんぽぽ 栄養士講話:12回	907人	1,464人	1,601人	260人	700人	750人	213.5%
10	地域リサイクル活動支援事業	食のリサイクル	廃棄物減量推進課	生ごみを活用した元気野菜づくりの体験活動を実施するために「ごみ減量アドバイザー」を登録し、地域や学校などの講習会に指導者として派遣	保育所4園、幼稚園2園、小学校3校、及び地域の団体(婦人会など)8団体に生ごみ堆肥化の助成を行っている。 また、「ごみ減量アドバイザー」として、NPO法人「大地といのちの会」の方17名を登録し、地域や学校などでの生ごみ堆肥化の講習会に派遣している。	自然の恵みに感謝し、自然の仕組みを知ることにより、食への関心を高めるとともに、「限りある資源を大切にすること」を育む。	・幼稚園、保育所の園児 ・児童生徒 ・市民	派遣回数	生ごみを活用した元気野菜づくりの体験活動を実施するために「ごみ減量アドバイザー」を地域や学校などの講演会に指導者として1回のアドバイザー派遣を行った。	7回	8回	1回	15回	15回	15回	6.7%
11	幼児教育センター運営費 (再掲)	食に関する相談 (子育てトークほっとタイム)	幼児教育センター	子育て相談員を交えて保護者同士がおしゃべりを楽しむ中で、食に関する情報交換、相談を実施	社会情勢の変化に伴い、子育ての環境や食生活も大きく様変わりしてきている。食育に対して知りたい・聞きたい・情報を得たい保護者が多くなっている。	食生活の不安を解消する。	・市民	参加者満足度	●開催日:6月15日 ●開催場所:幼児教育センター ●対象:乳幼児の子どもをもつ母親 ●内容:手遊びやパネルシアターなどを親子で楽しんだ後、母親を小グループにわけ情報交換を行う。 ●参加者数:15名	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
12	少子化対応推進事業 (再掲)	食に関する講演会	幼児教育センター	日ごろの食習慣を見直し、「子どもの食」について考える機会として食育講演会を開催	社会情勢の変化に伴い、子育ての環境や食生活も大きく様変わりしてきている。食育に対して知りたい・聞きたい・情報を得たい保護者が多くなっている。	保護者が食育の様々な情報や知識を習得することによって食育への関心を高め、日頃の食生活を見直す機会とするとともに、乳幼児からの食生活の必要性を発信していく。	・市民	参加者満足度	●開催日:6月26日 ●講師:食育インストラクター 加藤奈美氏 ●演題:「子は賢く、ママは美しく」 ●対象:乳幼児食育アドバイザー、子育て中の母親、食育に関心のある一般市民 80名	100.0%	97.0%	97.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.0%
13	家庭教育推進事業	子育て講座・研修会	社会教育課	小学校の入学説明会時に子育て講座を開催、PTAを対象とした各種研修会を実施	PTAとの共催で、さまざまなテーマを設定し、各種研修会を開催している。その中の1つのテーマとして、「食育」や「早寝・早起き・朝ごはん」を取り上げ、研修を行っている。	家庭が果たすべき役割や家庭教育の重要性を再確認し、家庭における教育力を充実させる。	・小学生の子どもを持つ家庭・保護者	「させば子育て講座」受講率	小学校入学説明会時に、保護者を対象として「させば子育て講座」を開催	96.1%	96.8%	95.7%	100.0%	100.0%	100.0%	95.7%
14	食育推進事業	幼児期における食育推進事業	健康づくり課	幼児への望ましい食生活に向けた講話	朝食の欠食や外食化などにより食文化の継承の機会が減少している。	幼児期における食への関心を高め、食を選択する力を培う。	教育及び保育機関における幼児	実施施設数	幼児への望ましい食生活に向けた講話を7月から3月に実施、予定施設の35園すべてに実施	42施設	41施設	35施設	43施設	42施設	42施設	83.3%

資料2 食育推進実施プランの進捗状況について

									実施内容	現状値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	目標達成度
番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	現状	事業目的	対象者	指標式名	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H24年度
○健康診査時における食育																
15	母子管理対策事業	4カ月児健診	子ども保健課	授乳時の母親の食事・母乳栄養・混合栄養・離乳食準備期から完了期についての指導	栄養指導は、第1子・医師からの指示・希望者に対して実施している。相談で栄養に関することは受診者の25％前後である。	親子の心の安定の中で食を楽しむ心地よい生活を実現する。	・対象児 ・保護者	健康診査受診率	授乳期の母親の食事・母乳栄養・混合栄養・離乳食準備期から完了期についての指導	99.9%	99.8%	99.6%	100.0%	100.0%	100.0%	99.6%
16	歯科保健推進事業	10カ月児歯科育児相談	子ども保健課	離乳食後期から完了期の食事指導、生えてきている歯の本数に合わせた噛み方、飲み方の指導、口腔内のチェック、歯みがき指導	対象児の80％前後の来所があり、その中にアレルギーの診断を受けたり、疑いがある子どもは10％前後いる。制限食をしている子どもも20％前後いるが、中には親の判断で食材の制限をしていることもある。また、離乳が進まず、母乳またはミルクだけや離乳期初期の段階の子どももいる。	体験をとおして、自分で進んで食べようとする力を育む。	・対象児 ・保護者	1歳6カ月児健診でむし歯のない児の割合	離乳食後期から完了期の食事指導・生歯本数・口腔内のチェック・歯磨き指導	82.7%	83.2%	98.2%	100.0%	100.0%	100.0%	98.2%
17	1歳6カ月児健康診査	1歳6カ月児健康診査（歯科健診含む）	子ども保健課	幼児食から普通食・間食についてや、嘔む習慣の定着についての指導	第1子・医師の指示・希望者に対して栄養士の指導を受けてもらう。小食・好き嫌い・アレルギー・卒乳などの相談が多い。また、制限食のある子どももいるため、個別で相談を受けることもある。	子どもが食を楽しみ、食に関心を持ち、生活リズムの確立を図る。	・対象児 ・保護者	健康診査受診率	幼児食から普通食・間食などの指導	96.0%	95.7%	96.5%	100.0%	100.0%	100.0%	96.5%
18	1歳6カ月児健康診査（再掲）	2歳児経過歯科健診	子ども保健課	2歳になるフォロー児に対する歯科保健指導	アンケート調査に関しては平成14年度より取り組んでいる事業である。平成17年度から2歳児経過歯科健診を開始した。実績は、はがき回収率45％、来所児率23.4％、歯科医院受診率32.5％、月別平均来所児数9.3人であった。	保護者に対し、歯の大切さ、生活習慣の見直しなどを意識づけ、健全な口腔機能の維持を図る。	・対象児 ・保護者	経過歯科健診受診率（所内及び歯科医院含む）	はがき勧奨182人、うち来所者34人 歯科受診者30人、回収率43.4％	33.7%	24.9%	43.4%	30.0%	35.0%	40.0%	108.5%
19	3歳児健康診査	3歳児健康診査（歯科健診含む）	子ども保健課	食に関する相談、歯科健診の実施、正しい咀嚼についての指導	好き嫌いや遊び食べ、小食などの相談が多い。調理に参加したり、食後の片付けを手伝ったりする子どももいる。	バランスの取れた食事や生活リズム、食事マナーなどについての認識、健全な口腔機能の維持を図る。	・対象児 ・保護者	健康診査受診率	食に関する相談、歯科検診の実施。	90.5%	95.5%	94.1%	100.0%	100.0%	100.0%	94.1%
20	健康管理対策事業	学校における歯科健診	学校教育課	学校歯科医による児童生徒の歯科健診を実施するもの	1人平均のう歯数(DMFT指数)は小学校1年～中学校3年を平均すると0.85本(平成22年度)である。	児童生徒の健康管理・増進を図る。	・児童生徒	児童生徒のDMFT指数	学校歯科医等による歯科健診	0.85	0.80	0.73	1.50	0.75	0.75	102.7%
2. ライフステージにおける取組《青年期》																
○料理教室の開催による食育																
21	けんこうシブさせぼ21計画事業	働くあなたの料理教室	健康づくり課	昼間働いている人のための料理教室の開催	昼間働いている市民を対象に、中央保健福祉センターで夜間に料理教室を開催。	正しい食の選択、調理技術を習得し食生活の充実、家庭での男女協働を図る。	・昼間働いている市民	料理教室の参加者数	昼間働いている人を対象に、11月に身近な旬の食材を使った夜間の料理教室を開催。	108人	67人	14人	190人	120人	120人	11.7%
22	けんこうシブさせぼ21計画事業（再掲）	青年期における食育推進事業	健康づくり課	家庭から自立する時期にある高校生を対象に講話と料理教室の開催	朝食を欠食する生徒、野菜の摂取量が少ない生徒が多くみられる。	家庭から自立する時期にある高校生に対し、健康的な食生活を実践するための支援を行う。	・高校生	・実施回数	2月に計2回、佐世保西高校と佐世保南高校で、一人暮らしを始めるに当たって食生活の講話と、和食の調理実習を実施。66人が参加。	4回	3回	2回	2回	2回	2回	100.0%

資料2 食育推進実施プランの進捗状況について

資料2 食育推進実施プランの進捗状況について									実施内容	現状値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	目標達成度
番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	現 状	事業目的	対象者	指標式名	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H24年度
○健康診査時における食育																
23	健康診査事業	【重点課題】 各種がん検診	健康づくり課	がんの早期発見のために各種がん検診を実施。 また、検診後に管理栄養士による対象者の健康状態に応じたきめ細かな栄養指導などを実施する。	胃・肺・大腸・子宮・乳・前立腺がんの6項目について、検診項目によっては20歳以上からがん検診を実施している。	生活習慣病(がんを含む)を引き起こす可能性のある因子を発見し予防する。	・20歳以上 (検診内容により異なる)	がん検診受診率	胃・肺・大腸・子宮・乳・前立腺がんの6項目について、検診項目によっては20歳以上からがん検診を実施している。	19.6%	20.0%	20.6%	24.0%	27.0%	30.0%	68.7%
24	健康診査事業 (再掲)	【重点課題】 骨粗しょう症検診	健康づくり課	骨粗しょう症の検診を実施。 また、検診後に管理栄養士による対象者の健康状態に応じたきめ細かな栄養指導などを実施する。	健診や予防接種時に検診についての情報提供を行い、毎月1回検診を行っている。その後、結果報告については、集団教育を行っている。	骨粗しょう症の早期予防により高齢期における寝たきりを予防する。	・20～70歳の女性	検診受診者数	骨粗しょう症の検診を実施	1,319人	1,329人	1,460人	800人	1,200人	1,200人	121.7%
25	健康診査事業 (再掲)	【重点課題】 成人歯科健診	健康づくり課	歯科医院での歯科健診、中央保健福祉センターでの歯科健診を実施。 食の基礎となる歯や口腔の健康維持、機能維持を促進する。	20歳以上を対象とし、母子健康手帳交付時をはじめ市内成人の方への利用を勧めている。	毎日の食生活の充実、「食べる楽しみ」を確保する。	・20歳以上	委託歯科健診、所内歯科健診及び離島での歯科健診の受診者数	歯科医院及び当センター内で歯科健診を実施	1,282人	1,400人	1,086人	1,220人	1,250人	1,280人	84.8%
26	健康管理事業	国保精密歯科健診	医療保険課	パノラマエックス線写真撮影・歯周基本検査・ブラークスコア等を含む成人歯科健診	通常の歯科健診内容より精密な健診項目を実施しているが、近年は募集定員に対し約7割の受診率で推移している。	歯科の早期受診・早期発見を進め、生涯を通じた歯と口の健康保持に努める。	・本市国民健康保険加入者(20歳以上)	受診者数	佐世保市歯科医師会に委託し実施	63人	84人	78人	100人	100人	100人	78.0%
27	けんこうショップさせぼ21計画事業 (再掲)	【重点課題】 民間企業と連携した食の健康づくり	健康づくり課	商工会議所をはじめ各事業所や健康保険組合など職域保健の関係者とネットワークを強化し、健診の受診勧奨や食に関する健康づくりの情報提供を行う。	地域保健と職域保健の連携を目的とし、平成21年度に地域・職域連携推進会議を設置。市ホームページを活用し、情報共有に努めている。 より効果的な事業実施に向け、平成25年からの事業実施に向け、検討を行っている。	ネットワークの強化により、食育を実践する市民を増やし、食育を市民運動として展開する。	平成25年度からの事業実施に向け、現在検討中		平成25年度からの事業実施に向け、現在検討中	平成25年度からの事業実施に向け、現在検討中	平成25年度からの事業実施に向け、現在検討中		平成25年度からの事業実施に向け、現在検討中			#DIV/0!

資料2 食育推進実施プランの進捗状況について

									実施内容	現状値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	目標達成度
番号	細々目	事業項目	担当 課名	事業内容	現 状	事業目的	対象者	指標式名	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H24年度
3. ライフステージにおける取組《壮年期》																
○料理教室の開催による食育																
28	男性のための料理教室	男性のための料理教室	健康づくり課	男性を対象とした料理教室の開催	平成22年度は、54回開催し、参加者延べ1,153名。料理を通した参加者の生きがいづくりにもなっている。	男性の食の自立支援を行い、食生活の充実を図る。	・市 民 （男 性）	料理教室の参加者数	男性を対象とした料理教室の開催54回開催し、参加者の延べ数959人	1,153人	948人	959人	1,188人	1,188人	1,188人	80.7%
29	いきいき元気食事づくり教室	いきいき元気食事づくり教室	健康づくり課	状態を維持し、食べる楽しみを得るため、介護食に応用できる料理教室の開催	平成22年度は、33回開催し、参加者延べ819名。加齢にともなう身体的な変化や食事づくりについての教室で、介護予防や介護家族のために参加している方も多い。	いつまでも元気で、活動的に暮らすために介護者とその家族を支援する。	・高齢者 ・家 族	料理教室の参加者数	33回開催し、参加者延べ数614名	819人	727人	614人	660人	660人	660人	93.0%
30	健康管理事業 （再掲）	食習慣改善教室	医療保険課	参加者に生活習慣病予防食を作ってもらい、料理する楽しさを通じて、食生活の大切さ、関係知識の啓発を行う。	平成20・21年度は社会資源の活用も含め、食生活改善推進協議会に「生活習慣病予防料理教室」の開催を依頼していたが、対象者のニーズの多様化などへ対応するためには、管理栄養士などの専門家による指導が必要と思われる。	特定保健指導の一環として、管理栄養士の専門的な指導により、具体的な食習慣改善指導（支援）を行うもの。	佐世保市国民健康保険加入者	参加者数	実施していない	95人	141人	未実施	100人	180人	180人	#VALUE!
H24 新規	健康管理事業	健康アップ料理教室	医療課	参加者に生活習慣病予防食を作ってもらい、料理する楽しさを通じて、食生活の大切さ、関係知識の啓発を実施	食習慣改善教室の名称で佐世保市国民健康保険者（特定健診受診者優先）対象として実施	管理栄養士の専門的な指導により、具体的な食習慣改善指導（支援）を行うもの。	佐世保市国民健康保険加入者（特定健診受診者優先）	参加者数	年間3回実施 （中央保健福祉センター：2回、東部住民センター：1回）			69人			90人	76.7%
H24 新規	健康管理事業	カラダすっきり教室	医療課	食と運動を具体的に体験しながら学習する機会を提供し、即実践できる知識の啓発を実施	H24年度より重症化予防事業として実施	管理栄養士及び健康運動指導士等の専門的な指導により生活習慣改善の効果の向上をはかり重症化予防を目指す	特定健診受診後特に生活改善が必要な方（特定保健指導該当者及び重症化予防対象者）	参加者数	年間3回実施 （中央保健福祉センター：3回）			66人			60人	110.0%
○相談、支援などによる食育																
31	健康手帳交付事業	健康手帳交付	健康づくり課	食生活や運動を含め、生活習慣病予防の情報を提供するため健康手帳を配布	満40歳になった全市民に個別発送。保健所、各支所・行政センターの窓口などで配布。	自身の健康管理と適切な医療確保に役立てる。	・40歳以上	・40歳到達者 ・希望者への配布数	食生活や運動を含め、生活習慣病予防の情報を提供するため健康手帳を配布	4,241冊	4,000冊	3,425冊	4,000冊	4,300冊	4,300冊	79.7%
32	健康相談事業	健康相談	健康づくり課	生活習慣病に関する来所・電話相談、食生活を含めた運動や生活全般に対する指導助言	保健所・各老人福祉センター・行政センター・黒島・高島にて来所相談を実施。また、保健所での電話相談も実施している。	個別相談を行うことで、対象者の生活状況にあわせた具体的な指導を行い、生活習慣病を予防する。	・40歳以上	相談者数	生活習慣病に関する来所・電話相談、食生活を含めた運動や生活全般に対する指導助言	4,410人	7,113人	4,199人	医療制度改正により、H20年度見直し	4,500人	4,500人	93.3%
33	健康教育事業 （再掲）	健康教育	健康づくり課	食生活、運動、生活全般の指導助言、骨粗しょう症検診や歯科健診の指導	参加者を募集し、病態別に実施している。	食の知識を深めることにより、健康への自覚を高め自分の健康管理を主体的に実践する。	・40歳以上	健康教育の参加者数	食生活、運動、生活全般の指導助言、骨粗しょう症検診や歯科健診の指導	128回	150回	158回	120回	130回	130回	121.5%

資料2 食育推進実施プランの進捗状況について

									実施内容	現状値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	目標達成度
番号	細々目	事業項目	担当 課名	事業内容	現 状	事業目的	対象者	指標式名	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H24年度
○健康診査時における食育																
34	特定健康診 査事業費	【重点課題】 特定健康診査	医 療 保 険 課	国民健康保険加入者の40～74歳を対象に内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)に着目した特定健康診査を実施。 また、健診後に管理栄養士による対象者の健康状態に応じたきめ細かな栄養指導などを実施	特定健康診査の受診率は年々上昇している。	生活習慣病予防のために、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)やその予備群を的確に抽出し、該当者を特定保健指導につなげる。	国保加入者40～74歳	受診率	受診率目標 65%	33.6%	32.30%	約35% (受診率 未確定のため推計値)	50.0%	60.0%	65.0%	#VALUE!
35	特定保健指 導事業費	【重点課題】 特定保健指導	医 療 保 険 課	国民健康保険加入者の40～74歳を対象に内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)に着目し、管理栄養士による対象者の健康状態に応じたきめ細かな栄養指導などを、特定保険指導として実施する。	特定保健指導実施率は目標値を上回っている。	特定健康診査により抽出した糖尿病などの生活習慣病予備群に対して適切な保健指導を行い、対象者が生活改善を行うことで将来的な発症の抑制を目指すもの	国保加入者40～74歳	特定保健指導実施率(%)	実施率目標 45%	32.1%	30.30%	指導途中のため算出できず	35.0%	40.0%	45.0%	#VALUE!
4. ライフステージにおける取組《高齢期》																
○料理教室の開催による食育																
○相談、支援などによる食育																
36	通所型介護 予防事業	介護予防の栄養改善	長 寿 社 会 課	食事づくりが日常的に自分でマネジメントできるための指導、嚥下摂食機能に応じた形態や食べ方の指導	65歳以上の高齢者人口は66,699人(高齢化率25.3%〔H23年度〕)で、高齢化率は年々上昇している。 (25.2%〔H22年度〕、24.8%〔H21年度〕、24.2%〔H20年度〕、23.9%〔H19年度〕)	低栄養状態の早期発見と早期改善に努め、自分らしい生活の確立と自己実現を支援する。	二次予防事業対象者(旧特定高齢者)のうち低栄養状態又はその可能性のある者	介護予防ケアマネジメントを行い維持・改善した高齢者数	食事作りが日常的に自分でマネジメントできるための指導、嚥下摂食機能に応じた形態や食べ方の指導	314人	543人	636人	418人	742人	624人	101.9%
○健康診査時における食育																
37	歯科保健推進事業 (再掲)	歯の健康優良高齢者コンテスト	健 康 づ く り 課	80歳以上の高齢者で健康な口腔を有する者を表彰	平成17年度長崎県歯科疾患実態調査によると、80歳以上の一人あたりの平均現在歯数は8.3本、80歳以上で20本以上自分の歯を有する者の割合は19.4%となっている。	楽しい食生活をおくため、80歳以上になっても20本以上、自分の歯を保持する。	・満80歳以上	参加者数	健康と福祉フェスティバルにおいて表彰式を開催。	16人	24人	21人	30人	30人	30人	70.0%
5. ライフステージにおける取組《妊娠期》																
○料理教室の開催による食育																
38	育児等健康 支援事業 (再掲)	マタニティクッキング	健 康 づ く り 課	妊娠中に不足する栄養素等の摂取、妊娠高血圧症候群予防のための食に関する指導、親の食事を離乳食へ展開する工夫の指導	マタニティ食事診断の結果から、妊娠中に必要な鉄分やカルシウムの摂取が充分でなく、塩分の摂取は過剰傾向にある妊婦が多い。また、朝食欠食や主食抜きなどの妊婦も見受けられる。	調理実習により自身と家族の食生活を見直す。栄養のバランスを考え、楽しい食事と健やかな生活リズムを作る。離乳食に対する理解を深める。	・妊 婦	育児相談者数・教室参加者数	妊娠中に不足する栄養素等の摂取、妊娠高血圧症候群予防のための食に関する指導、親の食事を離乳食へ展開する工夫の指導のため年間5回実施、参加者延べ数61人	45人	67人	61人	75人	50人	55人	121.8%
39	育児等健康 支援事業 (再掲)	プレパパママクッキング	健 康 づ く り 課	妊娠中及び家族の望ましい食生活について調理実習を通して知識を深める。	試行的に平成19年度に1回開催し、平成20年度より年2回実施している。 教室に参加されるご主人は、掃除や片付けなど家事をサポートする傾向にある。	家族の健康な生活を保つために望ましい食生活について夫婦で知識を高め、生活の場での実践につなげるとともに、男女共同参画の促進や男性の生活・自活能力の向上を図る。	・出産を控えた夫婦	教室参加夫婦	年間2回開催し、参加延べ数10組(20人)	11組	12組	10組	30組	30組	30組	33.3%

資料2 食育推進実施プランの進捗状況について

									実施内容	現状値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	目標達成度
番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	現状	事業目的	対象者	指標式名	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H24年度
○相談、支援などによる食育																
40	育児等健康支援事業 (再掲)	母子健康手帳交付	子ども保健課	母子健康手帳の交付時に保健・栄養・歯科について小グループ指導を実施。	母子健康手帳交付数:2,295部交付 栄養については10%の人が個別相談を希望している。	母性尊重の理念を高め、健康保持増進の意欲を図る。心身・出産に関する栄養の知識を普及する。	・妊産婦	相談者数	母子健康手帳交付時に栄養・保健・歯科についての指導を実施	2,606人	2,462人	2,442人	2,400人	2,650人	2,650人	92.2%
41	育児等健康支援事業 (再掲)	マタニティ学級	子ども保健課	栄養バランスなどの食事診断を実施	食事診断をする妊婦が少ない。食事診断の結果、朝食は簡単(パンと牛乳など)に済ませ、昼食も軽め(うどんやおにぎり)の食事に野菜や果物を加えた程度で、夕食は品数も多くしっかり取っている傾向がみられる。また、鉄分やカルシウムの取り方が全体的に少ない。健診結果から見ると、何らかの治療をしている妊婦の中では貧血の治療をしている妊婦が9割以上で、バランスのとれた食事ができていないのではないかと考えられる。	健康の増進、生活の質の向上、バランスのとれた食生活による豊かな生活、家族で食卓を囲む楽しい食事の実践につながる。	・妊 婦	育児相談者数・教室参加者数	食事のバランスなどの食事診断を実施	1,085人	1,102人	984人	1,000人	1,300人	1,300人	75.7%
○健康診査時における食育																
42	健康診査事業 (再掲)	妊産婦歯科健診	健康づくり課	歯科医院での歯科健診、生活習慣病健診時の歯科健診を実施するとともに、妊婦期に必要な歯科保健指導や健康管理を実施	20歳以上を対象とし、母子健康手帳交付時をはじめ市内成人の方への利用を勧めている。	毎日の食生活の充実、「食べる楽しみ」を確保する。また、歯科保健指導によって、妊娠期に必要な口腔管理を行う。	・妊 婦	妊婦歯科健診受診率	妊産婦を対象とした歯科健診の実施	65.8%	66.4%	60.8%	80%	81.0%	82.0%	74.1%

資料2 食育推進実施プランの進捗状況について

									実施内容	現状値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	目標達成度
番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	現状	事業目的	対象者	指標式名	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H24年度
(2) 食育への意識高揚																
1. 継続的な食育推進運動における情報提供及び健康づくりへの意識の普及や啓発事業																
43	食育推進事業 (再掲)	【重点課題】 食育意識啓発、普及	健康づくり課	市民の望ましい食生活に向けた食育に関する出前講座や、食育の取り組みを実施する団体と協働でイベントなどを実施する。 また、家族そろっての食事(共食)は食育の原点であることから、月に1度は家族そろって食事する機会を持つよう、啓発を行う。	平成22年度に実施した佐世保市食育に関するアンケート調査の結果では、食育の認識は高くなっている(87.6%)が、食育の取組状況においては20.3%であり、今後も食育を実践するための取組が求められる状況である。 なお、「毎月19日は家族みんなていっしょに食べようデー(仮称)」の設定については、平成24年度からの事業開始に向け検討を行う。	食育に関心を持ち、実践する市民の増加を図る。	・市民	イベント及び講座参加者数	市民の望ましい食生活に向けた食育に関する出前講座や、食育の取り組みを実施する団体と協働でイベントなどを実施する。 また、家族そろっての食事(共食)は食育の原点であることから、共食のネーミングと食育のロゴマークの募集を行った。	2,513人	2,736人	2,505人	5,000人	5,000人	5,000人	50.1%
44	けんこうシブさせぼ21計画事業 (再掲)	ヘルシークッキングコンテスト「家族そろっての食事・朝食推進」	健康づくり課	望ましい食習慣を身につけるために、簡単に作ることができる朝ごはんメニューを募集、募集した作品の試食やレシピを配布	佐世保市が平成22年度に実施した調査において、毎日朝食を食べている子どもは約91%であるという結果がでている。また、平成21年度の国民健康・栄養調査の結果からも、全体的に男女とも、年々朝食の欠食率が増加しており、特に20代と30代の男女において多い傾向にある。	啓発をとおして、各家庭での基本的な食習慣(家族そろっての食事や朝ごはんを食べる)を見直す機会を図る。	・市民	応募作品数	望ましい食習慣を築につけために、簡単に作ることができる朝ごはんメニュー及びおふくろの味メニューを募集した。 応募数690点	514点	736点	690点	300点	520点	525点	131.4%
45	けんこうシブさせぼ21計画事業 (再掲)	ぼくとわたしの大好きな朝ごはんポスターコンクール「家族そろっての食事・朝食推進」	健康づくり課	望ましい食習慣を身につけるために、朝ごはんポスターを募集。募集した作品でカレンダーを作成し市内各所に配布	学校の夏休みの課題として取り組まれるなど、参加校が年々増加傾向にある。	啓発をとおして、各家庭での基本的な食習慣(家族そろっての食事や朝ごはんを食べる)を見直す機会を図る。	・市民	応募者数	望ましい食習慣を築につけために、朝ごはんのポスターを募集。応募数176点	285人	315人	176人	285人	290人	295人	59.7%
46	歯科保健推進事業 (再掲)	デンタルフェスティバル	健康づくり課	毎年6月の「歯の衛生週間」に開催、「食生活コーナー」を設置して、おやつなどの砂糖含有量について指導を実施	平成22年6月6日(日)の開催実績は延べ人数1,741名であった。	啓発をとおして食の楽しみ、歯と口の健康維持、むし歯予防を図る。	・市民	参加者数	毎年6月の第1日曜に開催されており、今年度は、6月5日に島瀬公園でデンタルフェスティバルを開催。	1,741人	1,732人	1,813人	2,000人	2,000人	2,000人	90.7%
47	けんこうシブさせぼ21計画事業 (再掲)	【重点課題】 健康づくり応援の店推進事業	健康づくり課	健康に配慮した登録店舗を増やすことで、望ましい食環境の整備に努める	平成19年度から事業を開始し、平成23年11月1日現在、107店舗が登録している。	食や禁煙など健康に配慮した取組を行う店舗をとおして、食環境整備を進めるとともに、市民の食生活に対する関心を高め、適切な食選択の実践につなげる	・食品衛生法許可営業施設	登録店舗数	健康に配慮した登録店舗を増やすことで、望ましい食環境の整備。登録114店舗	97店舗	117店舗	114店舗	150店舗	110店舗	120店舗	95.0%
48	公民館主催講座事業	食に関する講座による情報提供	公民館政策課	各地区公民館が主催する市民向け講座に、食育のメニューを盛り込んで実施	平成22年度は19地区公民館で開催し、実施回数延べ54回、参加者延べ1,297名。料理や食生活に関する情報提供により参加者の健康づくりや生きがいづくりになっている。	市民が食育に関して理解を深めるとともに、幅広い知識を持ち、実践するようになる。	・市民	参加者数	18地区公民館で料理教室や食生活に関する講座等を実施した。	1,297人	947人	994人	480人	1,300人	1,300人	76.5%
49	生涯学習講師派遣事業	まちづくり出前講座	社会教育課	市職員が講師となって市民向け研修・講習・説明を行う「出前講座」を開催し、食育に関する情報を提供	約80の出前講座メニューを用意し、市民の学習ニーズに応えている中で、食育についても5メニューを揃えている。	市民が食育に関して理解を深めるとともに、幅広い知識を持ち、実践するようになる。	・市民グループ	受講団体数	市役所の業務を学習メニューとして取り揃え、市職員が講師として地域に出向く。	17団体	22団体	21団体	30団体	21団体	23団体	91.3%

資料2 食育推進実施プランの進捗状況について

									実施内容	現状値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	目標達成度
番号	細々目	事業項目	担当 課名	事業内容	現 状	事業目的	対象者	指標式名	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H24年度
50	けんこうシッ プさせぼ21 計画事業 (再掲)	【重点課題】 ホームページで の総合的な情 報発信	健康 づ くり 課	地元の食材を使ったヘルシー メニューレシピの紹介、直売 所の地元産品紹介、食品の 安全性、市内各地域の郷土 料理など食に関するさまざ まな情報を発信する。	現在、食や禁煙など健康に配慮した取組を 行う「健康づくり応援の店」などを市ホーム ページで紹介している。 今後、より多くの情報を提供できるよう、平 成23年度中の事業実施に向け、検討を 行っている。	情報の提供により家庭や地域 における食育を支援する。	・市 民	アクセス件 数	市ホームページ「栄養・食育」させぼ★ みんなの食育ひろばを開設。	平成23年度 中の事業実 施に向け、現 在検討中	未実施	未調査	平成23年 度中の事 業実施に 向け、現 在検討中			#VALUE!
51	けんこうシッ プさせぼ21 計画事業 (再掲)	【重点課題】 大学や民間企 業との交流促 進による食育 の推進	健康 づ くり 課	学生食堂・従業員食堂などでの 栄養成分の表示、食事バ ランスガイドや食育ガイドの普 及、大学祭などの機会を利用し、食に関する情報発信を行う。	平成25年度からの事業実施に向け、検討 を行う。	大学生や独身の社会人など、 青年期から壮年期までの食育 を推進する。	平成25年度からの事業実施 に向け、現在検討中		平成25年度からの事業実施に向け、 現在検討中	平成25年度か らの事業実施 に向け、現在 検討中	平成25年度からの事業 実施に向け、現在検討 中		平成25年度からの事業実施に向 け、現在検討中			平成25年 度からの事 業実施に 向け、現在 検討中
52	調理師研修 会	【重点課題】 特定給食施設 等における栄 養指導など食 に関する情報 提供の充実	健康 づ くり 課	保育所、老人福祉施設など 特定かつ多数の者に対して 食事を提供する施設での栄 養成分表示、生活習慣病予 防のための食事や運動など に関する情報提供を行う。	特定多数の市民に継続的に食事を提供し ている特定給食施設などでの給食管理、栄 養管理、衛生管理を実施する中で、常に正 確かつ新しい情報を取り入れながら日常の 業務に反映させることが重要である。そのこ とによって食をとおして市民の健康増進に 寄与する。 平成24年度からの事業実施に向け、検討 を行っている。	保育機関などを含む各施設で の食育を推進する。	特定給食施設 等の利用者	情報提供 実施率	平成24年7月26日・27日の2回開 催し、参加者の延べ数243人	平成24年度 からの事業実 施に向け、現 在検討中	平成24年 度からの 事業実施 に向け、現 在検討中	243団体	平成24年度からの事 業実施に向け、現在 検討中			#DIV/0!

資料2 食育推進実施プランの進捗状況について

									実施内容	現状値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	目標達成度
番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	現状	事業目的	対象者	指標式名	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H24年度
(4) 農林漁業を中心とした各種体験活動の促進と支援																
1. 子どもと保護者を対象とした体験活動																
69	地産地消推進事業	農業体験	農業畜産課	食農教育に取り組んでいる学校が広く発表する機会を提供	食農教育を実施している学校が広く市民へ発表する取り組みを行っている。	農業体験などにより食への理解と関心を高める。	・市民	栽培・試食体験者数(延べ数)	実施していない	314人	355人	未実施	300人	300人	300人	#VALUE!
70	ふれあい農業推進事業	市民農園	農業畜産課	貸農園形式により農業体験を実施	所在地:中里町高峯地区。区画数:250区画(30㎡/区画)。平成20年3月時点で82名が207区画を利用し野菜などの栽培を行っているが、利用者の高齢化及び度重なるイノシシ被害などにより、利用者数は減少している。	体験活動による心身の健康増進を図る。	・市民	市民農園利用率	一般市民に対する農園の貸出	60.8%	61.2%	66.0%	100.0%	100.0%	100.0%	66.0%
71	集荷販売対策事業費	卸売市場の見学及び体験学習	卸売市場	卸売市場の見学及び青果物などの体験学習	卸売市場は、生鮮食料品の安定的な供給を行っており、流通の基幹としての役割を担っている。 市民の食への関心が高まっている一方、青果物等の消費は低迷している。	卸売市場の見学及び体験学習をととして、市場の役割や食への理解を深めるとともに、青果物・水産物等の消費拡大に資する。	・市民 ・来訪者	見学者数	青果・花き・水産市場において見学希望の申込みがあり、市場見学を実施。また青果・花き市場において小学生を対象としたフルーツカッティング教室を、8月に開催。56名の参加者。	910人	1,505人	1,580人	600人	900人	900人	175.6%
2. 地産地消の推進																
72	農山村交流施設等管理運営事業	農山村交流施設等管理運営事業	農業畜産課	交流施設による特産品の展示、販売	地元でとれる農林水産物・加工品の展示即売を行っている。また、各地域におけるまつりや収穫祭など地域独自行事の実施をととして、消費者との積極的な交流を図っている。	都市住民との交流促進を図り、食と農業への理解を深める。	・市民	施設年間利用者数	・特産品の展示販売 ・農業体験等の体験イベントの実施 ・春まつり等の交流イベントの実施	192,000千円	182,400千円		282,000人	282,000人		64.7%
73	付加価値の高い一次産品育成対策事業	佐世保市産農水産物認定品目	農業畜産課	本市独自の農水産物認証制度による佐世保産農水産物の認知度向上	消費者(市民)は安全で安心できる新鮮な佐世保産農水産物を求めているものの、どのような農水産物があるのか、どこで売っているのかなどわからない。	本市独自の基準により、佐世保産農水産物の認証を実施し、その認知度向上を図る。	・市民	佐世保産農水産物の認証品目数	①今後、本市の特産品となる可能性がある候補品に対する支援。 ②佐世保農水産物産地化・ブランド化推進方針に基づき、事業計画の認定を行い、認定農産物の支援を図る。							
74	地産地消推進事業(再掲)	地産地消の促進	観光物産振興局	地元水産物の地元販売促進イベント開催への助成	日曜朝市など地産地消促進イベントが開催されており、広く市民に認知されている。	地域水産物の地域内消費拡大を図る。	・水産関係団体 ・漁業協同組合	イベント参加者数	1事業を採択し、イベント開催経費に対し支援を実施。	43,000人	51,600人	54,000人	30,000人	40,000人	40,000人	135.0%
75	水産物消費拡大事業	水産物消費拡大	観光物産振興局	水産物の県外・市外販売促進イベント開催への助成	大消費地へ出向いたPR活動や、水産加工品の消費拡大を目指し、販売促進活動を実施している。	地域水産物の広域的なPR活動により消費拡大・販路拡大を図る。	・水産関係団体 ・漁業協同組合	イベント参加者数	2事業を採択し、イベント開催経費等に対し支援を実施。	22,500人	25,000人	23,500人	25,000人	25,000人	25,000人	94.0%

資料2 食育推進実施プランの進捗状況について

									実施内容	現状値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	目標達成度
番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	現 状	事業目的	対象者	指標式名	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H24年度
76	魚食普及啓発関係事業費	お魚まつり	水産市場	魚食普及、地産地消の推進を目的としたイベントの開催	消費者の食に対する「安全・安心」思考が高揚している。また、中食・外食傾向による生鮮水産物離れが進んでいる。	水揚げされる新鮮な地元食材の提供と消費者への魚食普及を図る。	・水産市場関係者 ・消費者	お魚まつり入場者数	水産市場において、お魚まつりを開催。鮮魚・水産加工品の販売、販売促進PR、お魚の絵コンテスト、お魚さばき方教室等の魚食普及活動を実施。約4万人の来場者。	40,000人	40,000人	40,000人	35,000人	40,000人	40,000人	100.0%
3. 共生と対流促進																
77	エコツーリズム推進事業	生産者と消費者の交流促進	観光物産振興局	エコツーリズムの推進による生産者と消費者との交流促進	計画策定段階	都市住民及び来訪者の体験ツアーを実施し、生産者と消費者の交流促進を図る。	・市 民 ・来訪者	エコツアーメニュー数 （「時旅」プログラム数含む）	「させぼガイド・ネットワーク」の運営のほか、着地型観光商品『SASEBO時旅』の造成、PR、販売を実施した。	60種類	97種類	90種類	50種類	45種類	50	180.0%
78	離島漁業再生支援交付金事業	ブルーツーリズム＊の推進	観光物産振興局	観光資源を活用した地域振興策の実行	高島・黒島・宇久地域で漁業者を中心に組織する団体により事業を実施。	観光資源を活用し、漁村の活性化や食と漁業への理解を深める。	・漁業者 ・地区住民	離島地区における漁獲量	3島において、漁場の生産力向上、創意工夫を活かした新たな取り組みを実施した。	1,454t	1,440t	未調査	1,610t	1,650t	1,680t	#VALUE!

資料2 食育推進実施プランの進捗状況について

									実施内容	現状値	実績値	実績値	目標値	目標値	目標値	目標達成度
番号	細々目	事業項目	担当課名	事業内容	現状	事業目的	対象者	指標式名	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H22年度	H23年度	H24年度	H24年度
(5) 食の安全・安心や食生活に関する調査の取組推進																
1. 食品の安全性に関する情報提供・意見交換																
79	食のリスクコミュニケーション事業	食のリスクコミュニケーション事業	生活衛生課	食品関係情報の提供と意見交換(リスクコミュニケーション)の推進	輸入食品、加工食品の増加並びに食品の流通形態の複雑化、BSE等の感染症の発生、指定外添加物の不正使用、アレルギー物質を含む食品及び細菌・ウイルスなどによる健康被害など、新たな問題が生じている。市民や食品・環境衛生事業者への正確かつ分かりやすい食品衛生関係の情報が不足している。	衛生意識の向上による安全な食品の提供と食品事故を未然に防止する。	・市民 ・食品、生活衛生事業者	意見交換会開催回数	食中毒予防に関する体験型のリスクコミュニケーション、大学生を対象とした学園祭における食中毒予防に関するワークショップの実施	3回	2回	2回	5回	2回	2回	100.0%
2. 食品の衛生管理																
80	家畜保健衛生対策事業	家畜保健衛生対策	農業畜産課	家畜の疾病、事故が減少することを目的として、農業団体が行う事業に対して補助金を交付	近年、輸入農産物・飼料あるいは海外旅行者の増加により、海外由来の伝染病が国内に侵入する機会が増えている。特に、平成12年の口蹄病、平成13年のBSEでは大きな被害がでており、市内の畜産農家に大きな打撃と市民への不安を与えた。	家畜の疾病、事故等を未然に防ぎ、安全な食品を提供する。	・農業団体	子牛出荷時におけるワクチン接種率	・疾病予防対策事業、牛舎衛生対策事業、寄生虫対策事業に対し補助金を交付	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
81	営業許可調査事業	衛生講習会	生活衛生課	営業者、営業所従事者及び消費者に対する衛生講習会の開催、パンフレットの配布、苦情相談の窓口開設	国内におけるBSEの発生や食品の偽装表示の多発により、食に対する責任をこれまで以上に感じている営業者が増えている。また、食品に対する不安を感じる市民が増えている。	食品の安全性に関する基礎的な知識を習得する。	・市民 ・食品、生活衛生事業者	講習会参加者理解度	例年実施の食品衛生責任者講習会(Ⅱ種B)、給食施設などの講習会及び3年ごと実施の食品衛生責任者講習会(Ⅱ種A)の実施	70.3%	64.7%	67.2%	75.0%	75.0%	75.0%	89.6%
82	食肉品質向上事業	食肉品質向上事業	食肉衛生検査所	食肉検査の学習や食肉のセリ体験	①スーパーに並んだパックのスライス肉しか見たことがない。②牛や豚を正確に描くことのできる子どもが少ない。③人間のために犠牲になっている家畜がいるということを知らない。④食肉に対する感謝の気持ちが少ない。	命に対する畏敬の念を育て、衛生管理を学習することで食肉に関する安全と安心を高め、安全で衛生的な食生活環境づくりを推進する。	・小学生高学年の児童、中学生及びその保護者	参加者満足度	食肉検査の学習や食肉のセリ体験	91.0%	96.0%	100.0%	90.0%	90.0%	90.0%	111.1%
3. 食生活に関する調査																
83	食生活に関する調査	食生活に関する調査	健康づくり課	食生活に関する意識調査の実施	平成22年度に実施した佐世保市食育に関するアンケート調査の結果では、食育の認識は高くなっている(87.6%)が、食育の取組状況においては20.3%であり、今後も食育を実践するための取組が求められる状況である。	市民の食や健康に関する実態を把握し、計画的かつ効率的に食育の目標を達成するために、定期的に調査やアンケートを実施する。	・市民 ・小中学校 ・幼稚園 ・保育所など	佐世保市食育推進計画目標値の達成割合	実施していない	20.7%	未実施	未実施	100.0%			#VALUE!